大阪パークビジョン　概要版（案）

2021年10月４日

１　大阪パークビジョンについて

目的

　目的

　本ビジョンは、大阪府と大阪市の広域的利用が見込まれる公園緑地を対象として、ウィズコロナ／ポストコロナ時代の公園緑地を取り巻く社会情勢や環境を踏まえ、互いの公園緑地が持つ特性を活かして、これまで以上に各々の取組を連携・補完し、府域にその相乗効果を波及させ、大阪の広域的な公園緑地の魅力を高めていくための方向性として取りまとめたもの。

　また、今後、府内市町村とも共有することにより、効果的な市町村の公園緑地行政の推進に寄与することを目指す。

対象

●都市・地域を代表する公園緑地

●広域的に利用されるもの

●歴史・文化的なポテンシャルを有するもの

具体的には、大阪市の大規模公園、府営公園、府民の森、万博記念公園などがあげられる

注意

本ビジョンで扱う「公園緑地」とは、都市公園や府民の森などの、行政が土地の担保を有する施設緑地を対象とする。規模はおおむね１０ha以上とし総合的に判断する。

計画の位置づけ

本ビジョンは令和３年度より今後の１０年を見据えたビジョン

注意

社会情勢を踏まえ適宜見直しを判断

大阪市側

新・大阪市緑の基本計画は鶴見緑地再生、魅力向上計画などの各公園の基本方針に反映されている。

大阪府側

みどりの大阪推進計画は大阪府営公園マスタープラン、日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン、府営公園の具体的な取組方策、公園ごとのマネジメントプラン、自然環境整備計画等の公園計画に反映されている。

これらの府市の計画をつなぎ連携の取組みを推進し、市町村の公園緑地にも方向性を共有していくことが本ビジョンの位置づけである。

２　広域的な公園緑地を取り巻く状況

　主要で広域的な公園緑地は国や大阪府、大阪市が管理しており、都心部では多様な施設がある公園緑地が複数配置されている。一方、臨海部や山麓部、都心から離れた郊外部などにも配置され、結果、広域的な公園緑地は府域にバランスよく配置されており、既存ストックを含め、既に高いポテンシャルを持っている。

３　広域的な公園緑地がめざすべき方向性と取組方針

府市連携による方向性

その公園が持つポテンシャルを最大限に活かしながら、利用者目線も意識した最適なマネジメントを実施し公園緑地の魅力を高めていくため、更に府市連携を強化し、互いの機能を補完することによって生み出される相乗効果を府域に波及させていく。

重視すべき視点：既存ストックの有効活用、公園緑地の多様な使い方の提供、質の高い都市空間の形成

重視すべき視点を踏まえ府市連携の強化による取組方針

・１：既設公園緑地の官民連携（知識・ノウハウの連携）

→府市が有する先行的な民間活力導入ノウハウを、公園緑地の整備・管理運営に最大限活用し、緑の環境を活かした様々な施設の導入やイベントの実施などにより、その収益等を還元しながら、安全・安心な公園緑地の更なる魅力向上につなげていく

【取り組み例】

図１：民活による新たな施設設置等による魅力向上のイメージ写真（ジョウテラス）

図２：緑を活かした公園の魅力を高めるイベントの実施のイメージ写真（服部緑地植物園前花壇）

図３：スマートグラスによる業務効率化の検証の写真

・２：公園緑地間・周辺施設等との連携強化（イベント情報発信などのソフト連携）

→府域の多様な公園緑地の連携を強化するとともに、公園緑地に係わる各種活動団体・企業などとのプラットフォームの設置などにより、相互に協力した情報発信やイベントなどを実施し、生活の質を高める楽しみ方の選択肢を広げていく

【取り組み例】

図１：住民・企業等と連携したプラットフォーム設置のイメージ写真

図２：花やイベントなどの情報を府市共通ホームページなどで発信するイメージ写真

図３：新たな公園の利活用の取組みを市から府域全域へ展開するイメージ写真

・３：まちづくりと一体となった新たな公園緑地整備（一体整備などのハード連携）

→都市や地域の顔となる公園緑地において、質の高い空間の維持・ 創出を促し、まちづくりの中での効果的な活用や景観形成の観点をもって、まちの活性化や魅力向上に資する公園緑地整備を推進する

図１：新たな街の中心となるうめきた2期公園の鳥瞰パース

図２：歴史文化観光拠点なにわのみやあと公園の現状鳥瞰写真）

図３：いこい・賑わい拠点となるりんくう公園エリアのロングパークの鳥瞰写真

これら３つの取組方針により、相乗効果を府全域に波及させる。